



# ● 谷由起子の世界。

2015年4月4日/土 — 4月12日/日

作家在廊日 4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日)

OPEN 11:00-18:00 | 4月8日(水)定休日

## 糞掃布。

この言葉を聞いた時、新たまって、自らの20歳前後のことが浮び上がって来ました。

大学時代、ぼろをまとい、うろろうしながら、飛騨や富山や東北にかけて歩いていたことがガーと浮び上がって来たのです。

どこへでもヒョイと向っていたし、会いたい人がすごく旅先でみえてきたし、ひよんな形で会っても、気にせず対応できた良き時代でもあったのです。でもあまりにも悲しくもありました。

この布があることが不思議でなく、根底の日常にあるように思えるのは、そのことをかかえて生きてきたというカッコ良さそうに思われるかもしれないですが、そうだったとしかいいようがないのです。

谷さんがやられている布への執着が心からはなれられない。

愛しさというもののあらわれが、おのれの亡骸をこの布にくるんで土に埋めてもらいたいという夢を私が先にいかなければそうしますよと言っておきます。

あまりにもうしなっていくものが早く消えていきます。あせらずゆっくりと思っはいますが何か形にして言っていかなければならないのです。

2015年3月11日 菜の花店主 ● 高橋合一

## HPE 糞掃布について

畑で綿を育て糸を手で紡ぎ布を織る。畑で藍を育て織った布を藍染にする。藍で染めた布を服に仕立てて自ら着る。昔なら当たり前の布ですが 今となってはこういう布が私にはとても美しく見えます。着古されボロになった布は弱くなり実用性は低くなりますが 時を経て益々美しく見えます。村の人は実用のために作っているので着古しボロになると雑巾のような役目を最後に果たし惜しげなく捨てられていきます。

私はそれがもったいなくて 捨てる前の布を集めました。丁寧に縫い目をほどこき 痛みの度合いを分類し 新たに手縫いでつなぎ合わせ新しい布を作りました。

繰り返しになりますが村の人が捨てた布ですから弱い布です。しかし柔らかく 肌にかけてもしっかりきます。そして美しい布であると思います。

糞掃布を作る作業で糞掃布にさえできない端切れがです。その端切れで私は雑巾を縫い その雑巾で床を拭きます。穴だらけになり最後は糸が溶けるようになります。もういくらなんでも捨てようかと 最後に洗って乾かして 焼却しようと思しますが その溶けそうな糸が光に透け 輝き なんて美しいのだろうとっとりしてしまい 結局捨てられません。

約3m 四方あるこの糞掃布

バンと飾っても迫力がありますが ぼろ隠し用の布として 間仕切りに ベットカバーなどにも。 意外に使い道の多い布ではないかと思えます。

私は死んだらその亡骸をこの布にくるんでもらって土に埋めてもらいたいというのが夢です。

谷由起子



## うっわ 菜の花

小田原市南町1-3-12 電話 (0465)24-7020

<http://odawarananohana.weblogs.jp>

小田原駅東口より箱根方面へ向かうバス利用[箱根口]バス停下車徒歩3分